

AG5 だより

日本人学校・
補習授業校を
応援します！

在外教育施設の挑戦を支える—AG5プロジェクトの成果—

AG5運営指導委員会委員長・明治大学特任教授 佐藤 郡衛

文部科学省の委託事業である「在外教育施設の高度グローバル人材育成拠点事業」(通称、AG5=Advanced Global Five プロジェクト)を開始して1年が経過しようとしています。これまでの取り組みについては、本誌でも「日本人学校・補習授業校タマテバコ」の欄で紹介してきましたが、新年度が始まるにあたり、改めてこの1年間の取り組みについて紹介したいと思います。なお、「日本人学校・補習授業校タマテバコ」は今年度から「AG5だより」に名まえを変え、トップページに引越します。1ページ増えて、さらに内容も充実させていきますので、引き続きご愛読いただきますようよろしくお願い申し上げます。

「AG5プロジェクト」の背景

在外教育施設の新しい役割として、グローバル人材育成が重要な柱に位置づけられるようになってきました。

国が掲げた「日本再興戦略2016」では、「海外の子供たちが質の高い教育を受けられるよう在外教育施設における教育環境機能の一層の強化」策を打ち出しています。総務省では「どのようなグローバル人材育成教育を実施していくか」を明確にするよう求めていますし、直接の担当部署である文部科学省では「在外教育施設グローバル人材育成強化戦略」を打ち出し、在外教育施設での新たな取り組みを進めようとしています。「AG5プロジェクト」はこうした政策的な課題に応えようとするものです。

グローバル人材とは

まず、「グローバル人材」について明確にしておきましょう。ここでは次のようにとらえています。①広い視野、論理的思考力、適応力、自己表現力などのグローバル型能力と英語力を兼ね備えた人材、②高度の日本語能力・外国語能力を持ち、二つの文化と社会を理解し二つの国の架け橋になる人材、③世界各国の日本

人コミュニティにおけるリーダーとなるグローバルな人材、④日本の社会・文化、日本語を理解し、日本を支援する親日的な人材。以上のように想定しています。

こうした人材を在外教育施設で育成するための取り組みを支援することが今回のねらいです。まずは「広い視野」「論理的思考力」「適応力」「自己表現力」などのグローバル型能力と英語力を伸ばすための取り組みを支援することです。国際バカロレア(IB)に準拠した実践を行っている日本人学校の支援を開始しました。つぎに、日本人学校や補習授業校において二言語能力と二つの文化や社会を理解する能力を育成するための取り組みへの支援です。日本人学校、補習授業校ともに最近では国際結婚家庭の子供が多く就学しています。こうした子供たちの言語能力の特性を積極的に活かし、二言語能力の育成を図る取り組みを支援します。さらに、在外教育施設を日本文化発信の拠点として位置づけ、現地日本人コミュニティのリーダーや親日的人材を育成するための支援を開始しました。また、学校図書館を活用し日本文化の発信や日本語の学習の場を提供していきます。そして最後に、グローバル人材育成のためにすべての

在外教育施設が必要としている教員の指導力向上のための取り組みです。在外教育施設での質の高い教育を実現し、グローバル人材を育成していくには教員の指導力の向上が不可欠です。ここでは教員の研修のための支援策を打ち出しました。

在外教育施設でこうした新しい取り組みを行っていくことは容易ではありません。今までにない取り組みのためどう取り組んだらよいのか、また実践するための人材、財源などリソースが限られているためです。このプロジェクトをスタートするにあたり、日本国内から一方的に新しいことをやってほしいといった、いわば「下ろす」ような取り組みでは対応できないことが分かっていました。そこで、私たちが考える支援策と在外教育施設のこれまでの実績を考慮して、実現可能なところにおおいをして共同で取り組むことにしました。昨年度は、直接学校にうかがい、関係者と協議して協力体制を築き、取り組みを開始しました。

グローバル型能力育成のための
教育支援

— 香港日本人学校香港校小学部の取り組み —

香港日本人学校香港校小学部では、平成二十八年四月から四年生にグロ

ーバルクラスを開設しました。算数と理科を英語で行い、また学校独自の「グローバルスタディーズ」(世界的な課題について学期に一つのトピックで行う探究型の学習)という授業で問題解決力、論理的思考力、表現力などの育成を目指す点に特徴があります。香港日本人学校大埔校には国際バカロレアの小学生用のプログラム(PYP)を行う国際クラスがあります。台湾の日本人学校には国際結婚家庭の子供が多く在籍しています。こうした子供たちの中国語能力を活かすため、日本語能力を育成する取り組みです。そのためには、教科学習のための日本語の力をしっかりと伸ばしていくことが必要です。

二つの言語能力を向上させるための支援

台北、台中、高雄日本人学校での取り組み

台湾の日本人学校には国際結婚家庭の子供が多く在籍しています。こうした子供たちの中国語能力を活かすため、日本語能力を育成する取り組みです。そのためには、教科学習のための日本語の力をしっかりと伸ばしていくことが必要です。台湾の三つの日本人学校には、同じような環境にある子供がいるため共通の課題を抱えていますので、ICTを活用すれば三校間で教員の研修や実践の共有化を図ることもできます。

昨年度は、英語による算数と理科の授業の進め方や「グローバルスタディーズ」の内容や方法等について、日本から講師を招聘して研修を行いました。また、このクラスを担当する先生の日本国内での研修も実施しました。日本で国際教育の先進的な実践を行っている東京学芸大学附属大泉小学校、東京学芸大学附属国際中等教育学校、ぐんま国際アカデミー初等部での授業参観や先生方との話し合いが持たれました。

今後、グローバルクラスの学習成果について、子供たちが作成した成果物や活動の様子が分かる写真やVTR等をもとに検証を行いますし、一年間で子供たちの英語力がどの程度伸びたかを具体的に測定していき

ます。これまでの学習の成果については、AG5のポータルサイト(www.ag5.jp)をご覧ください。

台北、台中、高雄の各日本人学校の担当の先生方が台北日本人学校で共同の研修、さらに日本国内での研修も行いました。日系ブラジル人を中心に多くの外国人の子供たちが就学し、早くからこうした児童生徒への教育に取り組んでいる静岡県浜松市と菊川市の小・中学校を訪問し、授業の進め方、教材開発、学校全体での取り組み、地域との連携などについて意見交換を行いました。この他、高雄日本人学校は、現地の中正國民小の校舎に入っており、日本語と中国語の授業を相互に行っていますが、こうした言語教育についても今後注目していきたいと思っています。

英語力と日本語力の向上を目指すための支援

ダラス補習授業校の取り組み

ために、生活科をベースにした日本語教育に関わるカリキュラムです。今年度は小学部一、二年生の日本語の授業でどのような内容を扱い、どのような支援策が有効かについて実践を通して検証していくことにしています。

台北、台中、高雄の各日本人学校の担当の先生方が台北日本人学校で共同の研修、さらに日本国内での研修も行いました。日系ブラジル人を中心に多くの外国人の子供たちが就学し、早くからこうした児童生徒への教育に取り組んでいる静岡県浜松市と菊川市の小・中学校を訪問し、授業の進め方、教材開発、学校全体での取り組み、地域との連携などについて意見交換を行いました。この他、高雄日本人学校は、現地の中正國民小の校舎に入っており、日本語と中国語の授業を相互に行っていますが、こうした言語教育についても今後注目していきたいと思っています。

補習授業校の取り組みを支援するにあたり、まず補習授業校とそこに通う子供たちに対してアンケート調査を行いました。対象とした補習授

業校は十九校。学校や子供の実態把握、教育を進めていく上でどんな支援が必要か等の調査です。また、補習授業校に通う子供を対象に「学習状況調査」も実施し、約三三〇〇人から回答を得ることができました。詳細についてはAG5のポータルサイトを参照してください。

この一連の調査の結果、高い英語力を保持しているも、教科学習に十分対応できるだけの日本語力がない子供がおり、そうした子供たちの日本語力をつけること、そのためには日本の文化や社会の理解力を高める必要があることが改めて確認できました。そこで、ダラス補習授業校に協力をお願いし、活動ベースで、しかも教科と関連付けた日本語指導のプログラム開発を行うことになりました。「発見！わたしたちのテキサス、わたしたちの都道府県」という単元を開発し、子供たちが日本語で考え、調べ、そして発表するという協同の学習への支援を行っています。このプログラム開発の核となるコーディネーター役の先生が配置され、積極的な取り組みが行われています。補習授業校の先生方の日本国内での研修も実施し、東京学芸大学附属国際中等教育学校や啓明学園などを訪問し、研修を受けました。そ

の他、この单元をもとに、ワシントンDC、クリーブランド、コロンバス(OH)、セントルイス、オースチンの各補習授業校と共同で実践を行うことも探っているところです。

日本型教育・日本語教育の発信の取り組み
—アスンシオン日本人学校の取り組み—

パラグアイの日系人は、パラグアイの発展に大きく寄与してきましたが、若い世代も日本との架け橋として活躍できるようにしていくことが課題です。そのために日本人学校が一定の役割を果たしていくことが期待されます。そこで、日系人と生活拠点であるコミュニティに対して、日本語学習をはじめとする日本型教育や日本文化を発信する取り組みをアスンシオン日本人学校で行うことにしました。日本型教育や日本語教育を行うために、アスンシオン日本人学校がアスンシオン日本語学校、日本パラグアイ学院に対して支援するという取り組みです。昨年度は、日本人学校と日本語学校の合同研修会が開催されました。両校の話合いを通して、日本語学校では国語科の指導に関して多くの課題を抱えていることが分かってきました。そこで、日本人学校の教員が日本語学校

に出向き、共同して授業に臨むという取り組みを開始しました。

この他、日系人としてのアイデンティティ形成のための移住関連教材の開発支援も行います。開発の参考とするため、日本国内で研修を行い、横浜にあるJICA海外移住資料館等を訪問しました。今年度以降は日本人学校で使用する副読本とも関連付けて開発を行っていくことになっています。

日本文化等の発信の拠点形成の支援
—西大和学園カリフォルニア校の取り組み—

これは、学校図書館を日本文化や日本語の学習の場に、そこで多様な活動を行うことで、結果として親日的な人材を育成することがねらいです。西大和学園カリフォルニア校の図書館で日本文化発信のための取り組みや図書館を現地の人に開放し、そこで交流活動を行っていくという取り組みです。昨年度は、治安上の問題もあり対象を交流校の子供や教員、そしてその保護者に限定し、図書館で「琴と舞踊の披露会」「お茶のお手前」「日本映画の上映会」等のイベントを開催し、あわせて関連する資料や図書を展示しています。多言語・多文化図書館を目指しており、

英語に翻訳されている日本の絵本などを整備し、平成三十年度には地域の人々に開放するとともに、子供への読み聞かせ等を行うことを計画しています。

教員の実践的指導力向上のための支援
—上海日本人学校での取り組み—

上海日本人学校は全体の教員の約半数が学校採用教員で、中には初めて教職に就く人もいます。学校採用教員の指導力を向上させることが、学校全体の教育力の向上につながります。同校の協力を得て、教員の研修プログラムを開発し、提供するという取り組みを開始しました。

昨年度は、上海日本人学校の派遣教員と学校採用教員計一五二名にアンケートを実施し、どのような研修のニーズがあるかを把握しました。この結果を受けて、今年度上海日本人学校に学校採用教員として採用されることになった先生方に二日間にわたり東京で事前研修を行いました。初日は、「学級経営・生活指導・危機管理」「授業構成」「基本的な授業の進め方」等に関する講義とワークシヨップを、二日目は授業実践に役立つように演習形式で授業づくりの研修を行いました。派遣前にどのようなプログラムが適切か、効果的

かを把握する上で参考になるものとした。

この他、四月以降の自己研修で使うための「初任者研修指導資料」を作成しました。今年度はこの資料を全日本人学校に配付する予定です。また、就任後に継続的な研修ができるように、例えば一学期終了時、夏期休業中、二学期、三学期と実践を進めていくなかで出てくる課題を解決できるような自己研修用のプログラム開発を行うことにしています。

今年度の取り組みに向けて

昨年度の各事業の取り組みの成果については、先述のAG5のポータルサイトをご覧ください。

今年度は、昨年度の取り組みを基本的には踏襲し発展させるとともに、新しい取り組みも視野に入れて進めていきます。そして、より「高度グローバル人材育成」という視点に焦点化していきたいと考えています。在外教育施設で高度グローバル人材をどう育成するかについて具体の実践をもとにした提案をするよう注力していきます。

引き続き日本人学校や補習授業校の取り組みについて報告する予定です。ぜひご期待ください。